

佳作

## たからもの

徳島県 海陽町立海南小学校四年 逢坂 聖愛心

私は二年前にお姉ちゃんになりました。今までは、私は妹でした。お母さんは、私をお姉ちゃんにしてあげたいと思っていたそうです。私は、お母さんに赤ちゃんができたときいて、うれしかったけど何か不安でした。それから、お母さんは赤ちゃんを守るための点てきをしたり、だんだんおなかが大きくなっていききました。ある日、お母さんが、

「おなかに話してん。」

と言われたのではずかしかったけど話しかけてみました。すると、おなかがグニョグニョってうごいて、私はびっくりしました。お母さんは、くすぐりたいと言っていました。それから、私は赤ちゃんに毎日話しかけました。できるだけ、お母さんの手伝いをしました。私は、お姉ちゃんになれるか色々と考えました。お母さんが、赤ちゃんの検診に行って帰っ

てくるたびに、見せてくれるエコー写真が楽しみでした。赤ちゃんが、おしりをむけている写真や天使の時のエコー写真も見せてくれました。お母さんは、大きなおなかで仕事にも行ってました。私はすごく心ばいでした。病院は遠くて、家から一時間と少しかかります。病院には、お父さんも一緒に行ってます。家族で次は男の子やったらいいねとか、を話してたら、女の子でした。お父さんは少しざんねんがっていました。それから私は夏休みに入りました。赤ちゃんの産まれてくる日は、九月七日となりました。お母さんやお父さんが用意をはじめたり、私はまだじっかんがわきませんでした。お母さんのおなかが、スイカのように大きくなって、ばくはつするんじゃないかと思いました。お母さんは夏休みがおわりに近いと、私の宿題などバタバタしました。八月二十九日朝の三時に、お母さんがトイレに行くとはすいしてました。お父さんは仕事を休んで私たちも病院に行く用意をして、病院に出発。お母さんはけっこうふつうで、大好きなアーティストのうたをノリノリでうたってました。病院について、先生はすぐ、産まれるって用意してました。お母さんも

痛そうでした。朝から夕方まで痛みとたたかかってました。しばらくして運命のときがきました。カーテンの向こうで、お母さんはいっしょうけんめい赤ちゃんののために痛さとたたかかってました。私は心の中でおうえんしてました。そして、赤ちゃんの泣き声が聞こえた時、私は感動して泣いてしまいました。見せてくれた赤ちゃんは小さくて、かわいかったです。私がお姉ちゃんになれた日でした。三姉妹だけでなく、私は毎日があわせです。私は、この感動した日を忘れません。お姉ちゃんにしてくれて、ありがとうございます。